

います。天文学でも、研連と学界との関連や、研連委員の選びかたが問題になっています。今のところ、この問題は学会の新体制が発足するまでおあずけになっているわけですが、いずれにしても、天文学においては、研連は将来計画をも扱う広い範囲の活動をしていることも考慮し、研連を一人一人の研究者と学術会議とをつなぐものとして位置づけ、より強力なものとする必要があると思われまふ。この点からいって、現在の日本天文学会は研連とは一応別に考え、将来、研究者部会といったものが必要になったときに、研究者の定義と共に検討しなおすのがよいのではないかと私は考えています。

来年は学術会議会員の選挙があります。現在からでも有権者の登録は可能ですから、資格のある方は、早めに

登録されることをおすすめします（用紙は、学術会議事務局へたのめばよい）。同時に、天文研究者の間で、学術会議のあり方、また研究費、研究体制についても討論していきたいものと思います。

付)「学術会議と学・協会との懇談会」プログラム

- 「日本学術会議のあり方について」 岡倉古志郎
- 「長期計画の現状について」 福島 要・小野 周
- 「70年代の科学をめざして」 川崎 健
- 「科研費配分について」 諸星静次郎
- 総合討論

注) くわしくは、学術会議のパンフレット「日本学術会議の現状と問題点」を御参照下さい。

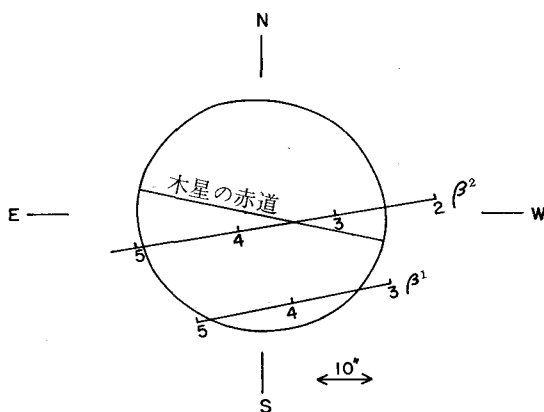
雑 報

木星によるさそり座ベータ星のえんべい

1971年5月14日早朝にさそり座ベータ星が木星にかくされる。このことはグリニッチ天文台のウィルキンスから東京天文台の古畑台長に手紙で知らせがきた。日本では潜入が南西の空低く観測条件は悪く、しかも東の方では夜が明けてしまつて出現は観測できない。観測に好条件なのは気象条件も考慮すると、マダガスカル島とアフリカ東岸、中近東の油田地帯等である。

予報は図からわかるように潜入は14日午前3時20分頃、出現は4^h50^m頃であるが、木星の位置の不正確さのために10分位の誤差はある。一、二カ月前になれば子午環観測による位置の補正量がわかるので、もっと詳しい予報がだせるはずである。図は、日本の中でも西にあって夜明けが遅い鹿児島から見たものとして計算したが、木星は遠いので視差による補正は日本国内であれば、ほとんど同じである。なお約1時間前に伴星の β^2 Scoが潜入する。

1952年に木星が5.5等星の牡羊座シグマ星をかくした。この時はバウムとコードが光電測光を行ない、光度曲線の傾きから平均分子量3.3と結論をだしている。(A.J., 58, 108, 1953)。今回は2.9等星であるから、もっと質の良い結果が期待される。1968年4月に海王星による恒星のえんべいがあり、日本やオーストラリアで観測されて、海王星の形や大気構造についての資料が得られたことは、東京天文台の諸氏による報告が本誌にもあったので覚えておられる方も多いと思います(天文月報, 61巻11号272~276頁)。(成相恭二, 平山智啓)



木星とさそり座ベータ星の相対位置
 β^1 は2.9等星, β^2 は5.1等星, 数字は日本標準時

新刊紹介

天体写真の写し方 藤井 旭著 (誠文堂新光社発行, A5変型版, 287頁, 定価550円)

表紙と口絵写真4枚がカラーで、本文中に多数の写真と図を入れた非常に美しい本であり、扉に書かれている副題、小型カメラ、小望遠鏡による天体写真の撮影について、ていねいに、ほとんどあます所なく書かれている。全頁アート紙を使っているので、写真を見るだけでも楽しい。

私たちは現在手に入るものとして、すでに冨田氏(天体写真の撮影)や藤波氏(小型カメラによる天体写真)の書物を持っている。これに対し第3ジャンルの天体写真として本書の持つ意義は大きい。本書の口絵カラー写真に沈むオリオン座と大流星というのがある。天空の壮大と美しさを示すすばらしい傑作である。私はこの写真

が本書の性格を象徴していると思っている。専門家が大型望遠鏡が撮った写真は、天文知識の補助で宇宙の神秘を教えてくれる。これはいわば顕微鏡写真である。これに対し小型カメラの写真は景観写真であり、感覚的、直観的に大宇宙の壮大さが、身にせまってくる。小型カメラの広角ということは大いに活用すべきことである。イラストレーターとして活動しておられる著者の性格が、本書を独自のものとしている。

撮影法、現像、プリントの実際についても詳記されて

いる。誰にも写せませすというのが本書の目ざす所であろう。本書によって一人でも多くの人が天体写真に親しみ、この方面に進まれるよう希望し、ひろく本書を紹介し、すいせんしたい。
(広瀬秀雄)

学会だより

天文教育に関する懇談会 10月27日(火)午後1時~5時
京都府立文化芸術会館会議室 202, 203 室

賛助会員名簿

旭光学工業株式会社	鈴木幸三郎	誠文堂新光社	小川誠一郎
朝日新聞社科学部	梅田敏郎	測機舎株式会社	西川末三
アジア航測株式会社	駒村雄三郎	ソニー株式会社	井深大
アストロ光学工業株式会社	滝沢 磐	谷村株式会社新興製作所	谷村貞治
岩井計算センター	大隅義郎	地人書館	上条 勇
岩波書店	岩波雄二郎	天文博物館	
宇宙開発事業団	島 秀雄	五島プラネタリウム	五島 昇
カールツァイス株式会社	波木泰雄	東京精密測器株式会社	池辺常刀
関西電力株式会社	芦原義重	東京電力株式会社	木川田一隆
関東電気工業株式会社	関井忠夫	東北電力株式会社	若林 彊
九州電力株式会社	赤羽善治	ナルミ商会	村上俊男
株式会社クラレ	仙石 襄	日米商会	高野高之
恒星社厚生閣	志賀正路	日本光学工業株式会社	杉 豊
甲南カメラ研究所	西村中子	日本出版貿易株式会社	望月正捷
五藤光学研究所	五藤 斉三	丸善株式会社	司 忠
金光教本部教庁	金光鑑太郎	三鷹光器株式会社	中村義一
三栄測器株式会社	丘山欽也	三菱重工業株式会社	久保富夫
三省堂	亀井 要	三菱電機株式会社	
島田理化学工業株式会社	実 武夫	電子営業第二部	伊東祐義
新電子工業株式会社	山本和一	ミノルタカメラ株式会社	田嶋一雄
住友化学工業株式会社	大谷一雄	八洲測量株式会社	西村正紀

1970年8月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	8, 60	6	5, 46	11	4, 63	16	6, 106	21	10, 70	26	10, 58
2	6, 60	7	—, —	12	4, 47	17	6, 60	22	8, 62	27	11, 84
3	—, —	8	6, 64	13	7, 87	18	8, 47	23	8, 80	28	8, 54
4	—, —	9	4, 82	14	—, —	19	11, 54	24	10, 83	29	10, 63
5	5, 39	10	4, 74	15	7, 70	20	10, 54	25	11, 77	30	—, —
(相対数月平均値: 101.4)										31	10, 49

昭和45年9月20日	編集兼発行人	東京都三鷹市東京天文台内	森 本 雅 樹
印刷発行	印刷所	東京都文京区水道2-7-5	啓文堂松本印刷
定価 125 円	発行所	東京都三鷹市東京天文台内	社団法人 日本天文学会
		電話武蔵野 31局 (0422-31) 1359	振替口座東京 1 3 5 9 5